

岡山大学広報

いちょう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE



OKAYAMA
UNIVERSITY

BNCT

Boron Neutron Capture Therapy

近未来のがん治療

7 JULY
2017

Vol. 86

CONTENTS

岡山大学の研究誌 Vol.1

文化人類学 中谷 文美

岡大と地域と

サイエンスカフェ

HISTO+REAL / 「実りの学都」へ。新学長・理事紹介 / OU NAVI

BNCTが近未来のがん治療を変える。

岡山大学は2017年4月1日、「中性子医療研究センター(NTRC^{※1})」を開所しました。センターでは、がん治療の未来を切り拓く「ホウ素中性子捕捉療法(BNCT^{※2})」の先端研究を進めていきます。

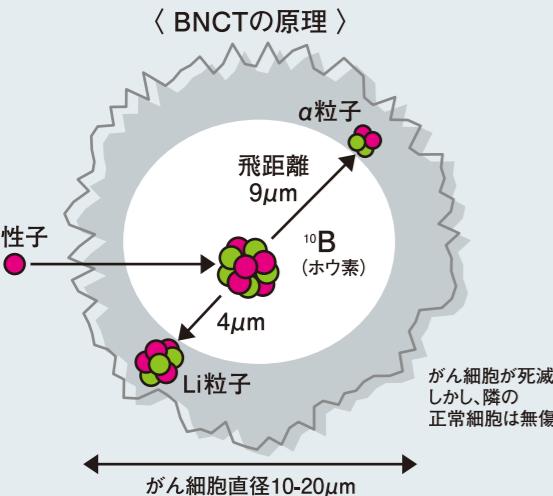
BNCTとは?

(ホウ素中性子捕捉療法)

BNCT(ホウ素中性子捕捉療法)は、がん細胞のみをピッポポイントで破壊する次世代のがん治療法として、世界中から注目されています。

加速器を使ったBNCTの仕組みは、以下の図のようになります。

- 1 がん細胞に取り込まれやすいホウ素薬剤を投与。
- 2 加速器を使ってエネルギーの低い中性子線を照射。
- 3 ホウ素と中性子が衝突した際、アルファ粒子とリチウム粒子が飛び、がん細胞を破壊。

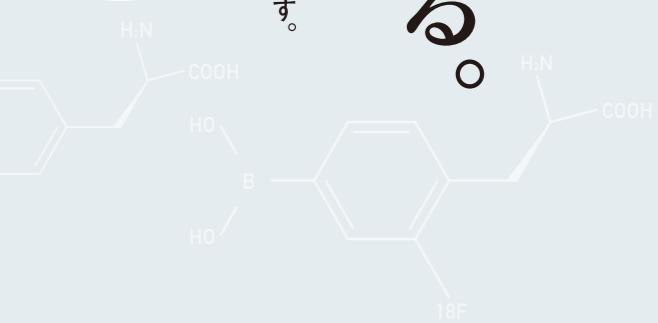
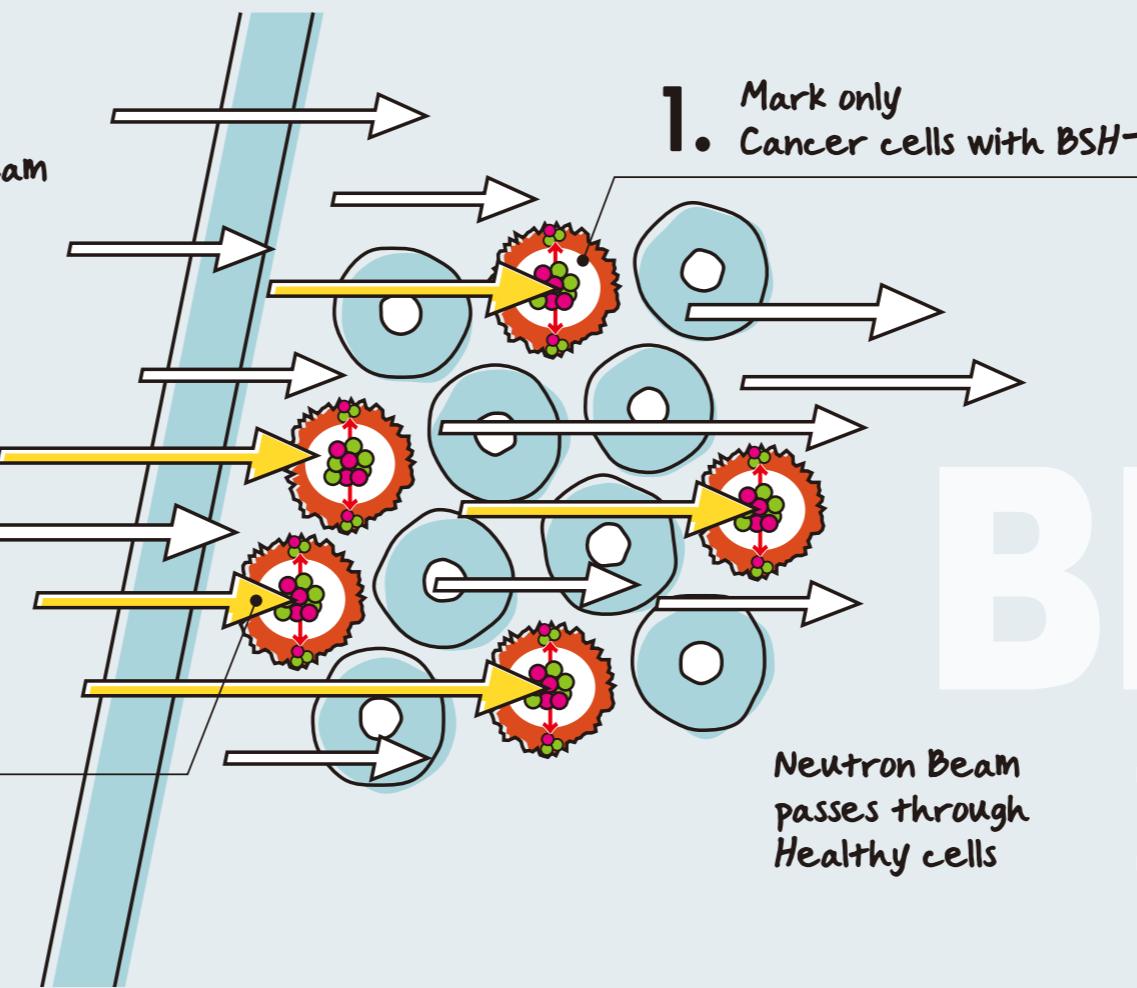


BNCTの原理
中性子
α粒子
飛距離 9μm
¹⁰B (ホウ素)
Li粒子
がん細胞が死滅
しかし、隣の正常細胞は無傷
がん細胞直径 10-20μm
4μm
9μm
がん細胞が死滅
しかし、隣の正常細胞は無傷
がん細胞直径 10-20μm

2. Radiate Neutron Beam

3. Attack Only Cancer cells

- …正常細胞
- …がん細胞
- …中性子線



BNCTと他の粒子線治療法との違い

	BNCT	陽子線・重粒子線
治療粒子線	中性子	陽子・重粒子
治療期間	1~2日	6~8週間
治療回数	1回(複数回も可能)	多数回
治療薬剤	ホウ素薬剤	なし
浸潤がんへの有効性	高い	低い

※1 NTRC : Neutron Therapy Research Center
※2 BNCT: Boron Neutron Capture Therapy

中性子医療研究センターの役割

中性子医療研究センターでは、BNCTにおける技術革新を起こし、中性子医療という

新規分野を創出するため、放射線治療の世界基準を定める国際原子力機関(IAEA)や

国内外の大学などと連携しながら、治療法やルールを確立し、BNCTに関する世界の窓口として、「世界標準」をつくります。

センターには国際連携、薬剤開発・動態解析、線量解析・システム開発、臨床研究、加速器の5部門を設置し、世界的な研究者を招聘するなどして30人規模でスタートしています。

具体的な役割として

- 1 新たなホウ素薬剤の開発
- 2 国際原子力機関(IAEA)と共同で国際標準の治療法を開発
- 3 名古屋大学と共同で、IAEA基準に準拠したより安全で効率的な小型中性子線発生装置(加速器)の開発

開発
開発
開発
開発
開発

IAEAや岡山県鏡野町との連携

岡山大学がBNCTを推進するには、理由があります。その一つが、高機能ホウ素薬剤の優れた研究着想があるといつ点です。2009年から大学院医歯薬学総合研究科の松井秀樹教授(細胞生理学)を中心としたグループが薬剤研究に着手。独自技術で研究した化合物は、ホウ素のがん細胞内導入効率が従来品(BSH、BPA)に比べ約100~1000倍高く(細胞膜を通過しやすい)、がん細胞への集積性に優れています(現在、特許出願中)。

岡山大学がBNCTを推進するには、理由があります。その一つが、高機能ホウ素薬剤の優れた研究着想があるといつ点です。2009年から大学院医歯薬学総合研究科の松井秀樹教授(細胞生理学)を中心としたグループが薬剤研究に着手。独自技術で研究した化合物は、ホウ素のがん細胞内導入効率が従来品(BSH、BPA)に比べ約100~1000倍高く(細胞膜を通過しやすい)、がん細胞への集積性に優れています(現在、特許出願中)。

そして、2017年2月、岡山大学は岡山県鏡野町と「寄付研究部門の設置に関する協定」を結び、中性子医療研究センターに「国際連携部門」を設置しました。鏡野町は世界最高水準の医療・サービスを町内で実現することにより、町の活性化につながる未来への投資であるとしてこの取り組みに期待を寄せています。今後は5年をめどにBNCTの治療開始を目指して、BNCTで世界をリードできる体制づくりを進めていきます。

12月5日には、岡山大学IAEA連携シンポジウムを、鹿田キャンパス内のJunko Fukutake Hall(→ホール)で開催予定です。

岡山大学が切り拓く、BNCTの「未来」。

中性子医療研究センターの中でも力ぎを握る3人に、取り組みの経緯や、開所への思いなどを聞いた。

なぜ、岡山大学がBNCT？ その歩みと取り組み

——岡山大学がBNCTの領域に踏み込んだ理由や、経緯をお聞かせください。

松井

きのかけの一つが、新しいホウ素薬剤を岡山大学が開発したことです。もともと、私が主宰する細胞生理学教室が、2001年に「タンパク質セラピー法」という新技術を開発しました。これは細胞膜を通してさまである有用物質(タバパク質、核酸、ペプチド等)を高能率に細胞内に取り込ませる技術で、各種の特許を取得しています。この技術をもつて実用化できないかと考えていたところ、ある学会でBNCTの世界的権威にお会いして「私たちの技術でホウ素薬剤をがん細胞に効率的に入れることができるのはないか?」それができたら画期的ですね」という話になつて「じゃあやってみよう」と進めたらこれが大当たり(笑)。「ストリート的にもがんの治療ですから十分ペイできる。新規ホウ素薬剤の開発は、これまでのBNCTの概念を変えることができると信じて研究を続けてきました。

——実績を築いてきたからこそ、岡山大学が世界的にもBNCT研究の要となっているのですね。

松井

はい、ただ当時私たちはそれがどれくらい重要なことが認識できていませんでした。研究領域が広がったのは、その後、岡山市内で行われた学会で市川先生にお会いしてからですね。

市川

2014年7月26日です。まだ3年経ってなんですね(笑)。実はその時、私はすでにBNCTの存在を知っていました。QOL(生活の質)が非常に高いということも、ただBNCTは中性子という物理の話と薬剤の話、臨床の話が絡んだ境界領域で

おると信じて研究を続けてきました。

——BNCT研究の要となっているのですね。

松井

はい、ただ当時私たちはそれがどれくらい重要なことが認識できていませんでした。研究領域が広がったのは、その後、「一緒にやりましょう」と話しました。

井川

そしてそこに私が加わりました。私は市川先生と他大学での治験を通してお会いしたのがきっかけです。私自身は、もともと歯学領域の口腔外科が専門です。

——薬剤、中性子、臨床と、各分野のエキスパートが出会つたといふことですね。

松井

もちろん3人それぞれ周りのたくさんの仲間に支えてもらつているからこそですが、ある意味私たち3人が当プロジェクトの「異分野の連携のシンボル」と言えるかもしれません。

市川

ちなみに井川先生は世界で初めてBNCT施設を設置した病院(福島県郡山市・南東北病院)を医長として立ち上げたキャリアをお持ちです。まさに日本のBNCTのキーパーソンのお一人です。

IAEAとの連携。岡山大学がBNCTの世界の窓口に

——IAEA(国際原子力機関)との連携についてお聞かせください。

市川

IAEAの責任者に2015年6月、世界におけるBNCTの現状と問題点岡山大学における新規ホウ素薬剤の開発状況、包括的なBNCTシステムの開発構想を伝えたのが始まりです。

——その時のIAEAの反応はどうでしたか。

市川

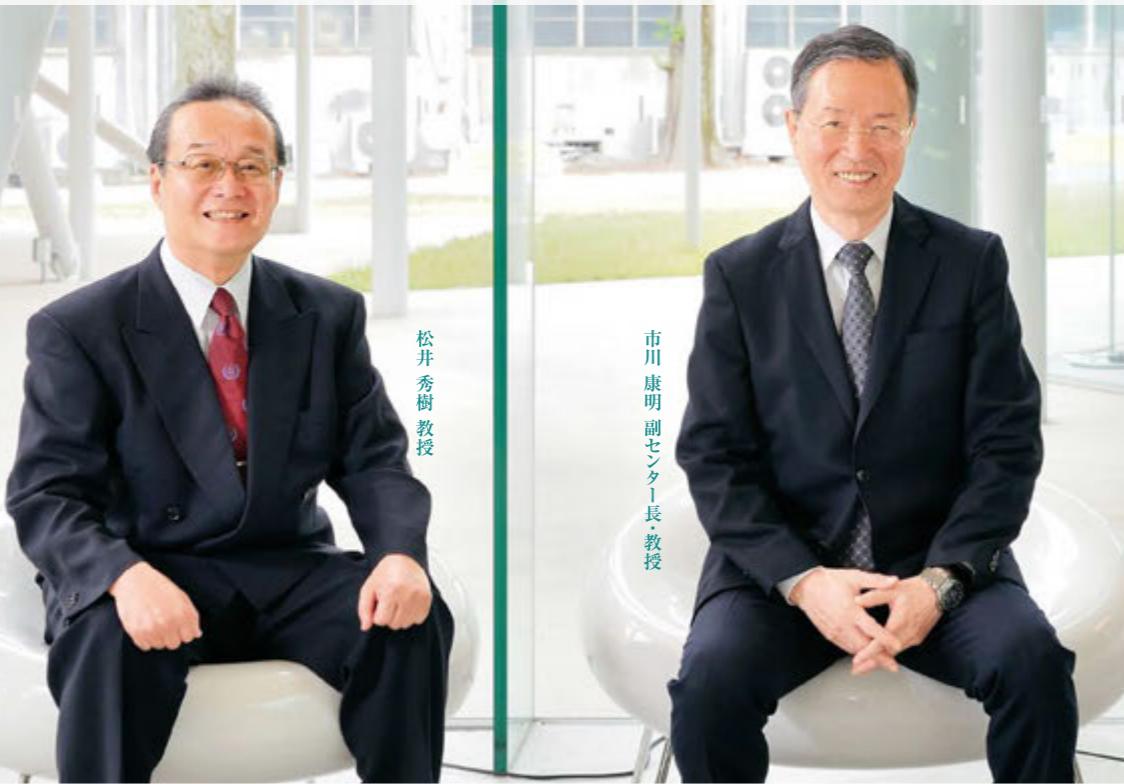
ホウ素薬剤については興味深いと詳細な説明を求められました。その後も継続的に岡山大学と協議を進めていきたいという同意を得ました。2016年9月、IAEA総会のサイドイベントでBNCTの現状を私と松井先生、井川先生、名古屋大学の土田一輝先生、鬼柳善明先生が報告しました。その1ヶ月後の10月には、岡山大学とIAEAはBNCTに関する協定を締結。岡山大学は日本の学会だけでなく国際学会も含めて、IAEAに関するBNCTの世界の窓口としての役割を担うことになりました。

松井

放射線治療に関する世界のガイドラインを策定しているIAEAとの連携は今後世界展開に向けた強力なサポートになります。我々の目標はBNCTの治療法やルールなど「世界標準をつくる」こと。そのためにもさらなるIAEAとの連携を深めさせてもらっています。



中性子医療研究センターの開所式(5月9日)では、横野博史学長、竹内大二センター長が看板を除幕した。式には山崎親男鏡野町長らも出席した。



市川 康明副センター長・教授

井川 和代准教授



市川 和代准教授



IAEA総会のサイドイベントで、BNCTの現状を報告する市川教授(右から4人目)。IAEAからは、ホウ素薬剤について興味深いと詳細な説明を求められた。

地域の理解と協力。鏡野町との連携

——IAEAとの関係が「世界との連携」なら、鏡野町との関係は「地域との連携」という意味で注目されていますね。

松井

地域の人たちの理解がとても大切です。もともと鏡野町には日本原子力研究開発機構(JAEA)の人形峰環境技術センターがあり、地域の方々には「原子力への正しい理解」があるのです。原子力をみんなの幸せと健康のために平和利用したいという鏡野町の皆さんのが思ってお互いによい協力関係を築くことができました。

——BNCTにかける思いをお聞かせください。

松井

私たちが取り組んでいる基礎的な研究によって、日本だけでなく世界の人々が幸福に、健康になれたういなと思って研究を続けてきました。そして幸運にも素晴らしい人々や、IAEAといふ国際機関との出会いにも恵まれました。センターを支えるたくさんの人との「縁」によつて、やつとスタートライ、立てた。いや立たせてもらえたと思っています。

——BNCTはいろいろな分野を統合したもの。各分野の最も優れた人たちが集まつたことが、このプロジェクトでは極めて重要です。

井川

例えて言うならBNCTのプロジェクトはオーケストラのようなもので、いろんな分野が交わって基礎系から応用工学、さらに臨床まで関わっています。治療において、医師はもちろん薬剤師や看護師、放射線技師、臨床検査技師などさまざまなエキスパートが一丸となって連携する必要があります。そういう意味でも、太字が「一体となってプロジェクト」に取り組める岡山大学は素晴らしいと思います。

——最後に、今後の意気込みを。

井川

例えば顔面の腫瘍などは患者さんにとつて心理的にも大きな負担となります。それがBNCTなら1回の治療で「食べて、飲んで、しゃべる」という機能を維持できる可能性が高い治療後は早期に社会復帰して普通に生活することができます。これからさらに研究が進めばもっとみんながやりたい治療になるはず。そのきっかけが岡山大学になればと思っています。そして、BNCTは医療経済的にも貢献度が大きい。放射線治療や抗がん剤治療、手術を含めた集学的治療として、医療政策面からも注目を集めています。その点も重要ですね。

松井

医療は巨大な市場。BNCTを世界的に展開すれば世界のマーケットを日本が占めることができます。これは逆に言えば、日本の経済に貢献できるかもしれません。私たちはそこまでぜひ頑張つていきたいと思っています。

市川

だからこそ「世界標準」。そのためにもデータベースが極めて大切です。今回のプロジェクトでは、世界的有名なセキュリティの専門家によって、OSから作り直したまったく新しいシステムを作ります。これが完成したあつきには統合システムとして世界で

ここしかないものになります。

井川

患者さんのために何が必要か、このがんに対してもどんな

薬剤、どんなタイミングでどのように使うか。将来的にはオーダーメード治療の可能性もありますね。

——本日はありがとうございました。

文化人類学

中谷文美

海外での長期フィールドワークに基づく視点で日本の社会問題に挑む

結

婚、出産、子どもの就学―。さまざまな人生の節目で悩みの種となるのが「その後も働き続けるか否か」という問題だ。日本では、働く男性に対する問い合わせをする人は少ない。言い換えれば、子どもや高齢者がかかるながらルータイムの仕事に従事する共働き夫婦の場合でも、ワークライフバランス（仕事と家庭の両立）が問題になるのは、なぜか妻の側だけということが圧倒的に多い。

こうした日本に流れる「空気」は、どうすることもできないのだろうか。その答えに迫るうと研究を進めるのが大学院社会文化科学研究所の中谷文美教授（文化人類学）だ。日本とは文化や背景の異なるインドネシア・バリ島やオランダをフィールドに、現地の人々の「働き方」を知るための密着型調査を長年行っている。国の制度や社会が変化していく中で、人々はどう変化を受け止め、悩み、決断をしているのか。ワークライフバランスを国の制度や政策だけで捉えるのではなく、そこに住む人々の生活の営み全体を視野に入れてアプローチする。日本では、収入を伴う労働のみを「仕事」とし、家事や育児などは「仕事」にあたらないとする傾向がある。しかし海外の密着調査では、収入に結びつかない活動も、賃金労働と同じくらい、あるいはそれ以上に価値を置く国や地域があることが分かつてきただ。日本で当たり前と思われていることでも、社会の価値観が異なれば女性の立場も変わる。そして同じ社会であっても、時代とともに大きく変わっていく。「日本を取り巻く今の状況や、働き方も、必ずしもなければならない」というものではなく、別の可能性が常に開かれているはずだと力を込める。



異なる価値観、背景の中で学ぶことの大切さ

私がイギリスへ留学していた時、周囲は留学生ばかりでした。さまざまな国や多様な文化や、全く異なる価値観、背景の中で学ぶことができたのは貴重な経験であり、今の研究にもつながっています。そうした魅力はグローバル・ディスカバリー・プログラムも同じ。留学経験

のある教員とともに、アジアやヨーロッパ、アフリカなど、さまざまな地域から来る学生と一緒に大学生活を共にします。中には既卒の学生や社会人経験者もいます。そのような空間が岡山大学にでき、何を生み出せるのか、どう広がりを見せていくのか、期待しています。



グローバル・ディスカバリー・プログラム

世界で活躍できる「実践人」の育成を目指す岡山大学。今年10月には、グローバル・ディスカバリー・プログラムがスタートする。中谷教授は設置準備室長も務める。

このプログラムは、世界中から集まる留学生、帰国生など日本人学生と一緒に学ぶ。学生は、学部や学科といった既存の枠組みにとらわれず履修プログラムを作成できる。共通言語は英語で、レベルにあったアカデミックな英語の授業を受けることも可能だ。フィールドワークや海外留学なども組み込まれており、グローバルに活躍する学生を育成する。

国際選考で30人、国内選考で30人を募集し、10月には国際選考で選ばれた学生が入学。国内選考の募集はこれから始まり、10月の入試を経て、2018年4月に入学する。



1.2 海外でのフィールドワークで一緒に生活したリントンビー・シタリしたインドネシアやオランダの人たちとの集合写真。なかには、25年以上の付き合いになる家族も。

3 著書
これまでの研究をまとめ、発表した主な著書から二つ。「女の仕事」のエスノグラフィー「バリ島の布・儀礼・ジェンダー」、「オランダ流ワーク・ライフ・バランス」「人生のラッシュアワー」を生き抜く人々の技法。



アジア地域の伝統織物



オランダでの現地調査

ワークライフバランス先進国で、政府が男女参画に積極的にはたらくがけで、現地の空気感まで読み取るために長期滞在を実施。新聞や雑誌も読み込み、現地の人々にインタビューをしながら調査を行った。

オランダ人女性たちは、やりがいのある仕事に就きながらも「母親であることをきっぱりと優先する」生活をしているよう

に見えた。その姿勢を

生み出し、支える要因となるものはなんに

かと、興味を覚えた。

インドネシア・バリ島での現地調査

機織りを仕事にする女性たちに約2年間密着。仕事だけでなく日々の生活や、ありとあらゆる冠婚葬祭を共にした。彼女たちは、日本の両立て懇親ではおらず、仕事と儀礼準備の両立てに悩みを抱えていた。そこでの調査が、今に至る研究生のスタートとなった。

中谷文美

profile

(なかに あやみ)

1963年山口県生まれ。専門は文化人類学。上智大学外国語学部卒、英国オックスフォード大学大学院博士課程修了。京都文教大学助手、岡山大学文学部講師などを経て、2008年から現職。グローバル・ディスカバリー・プログラムも同じ。留学経験

岡大と 地域

File
1

サイエンスカフェ

最新の科学・研究について
気軽に話し合う場です。

サイエンスカフェとは



潜入レポート

10年以上続いているイベント、岡大サイエンスカフェ。人気の秘密を探るため、4月に行われた60回目のサイエンスカフェに、岡山市内はもちろん、県内外からの参加もあるそうです。カフェ「一」で飲み物を片手に、開演までの待ち時間を過ごします。

今回のテーマは「歯を失った際に現状ができる」と将来展望。大学院医歯薬学総合研究科の窪木拓男教授がお話をしてくれました。

最新の科学に触れてみませんか！

サイエンスカフェ

・スケジュール

2017

8月 7日(月)

18:00~19:30

第62回

〈テーマ〉
昆虫の行動：基礎と応用と実習と

〈講 師〉
大学院環境生命科学研究科
宮竹 貴久 教授

内 容

昆虫には個体個体、さまざまな「個性」があります。敵に対峙するあるいは逃げる工夫や、恋の相手を探したり選んだりするスキルなどを紹介し、昆虫の行動を楽しく習うことで応用科学にもつながるお話をします。

10月 31日(火)

18:00~19:30

第63回

〈テーマ〉
暮らしをささえる高分子材料
-レジ袋から人工網膜まで-

〈講 師〉
大学院自然科学研究科
内田 哲也 准教授

内 容

日々の暮らしで使われている高分子材料の特徴と利用方法、また現在の開発の状況や未来への夢など、実際のサンプルや写真、自分の研究の成果も含みながら説明します。

12月 18日(月)

18:00~19:30

第64回

〈テーマ〉
邪馬台国女王と女性首長

〈講 師〉
大学院社会文化科学研究科
清家 章 教授

内 容

邪馬台国女王・卑弥呼はいかなる歴史的特質を持つのでしょうか。古墳時代には多くの女性首長が存在しました。彼女たちと卑弥呼を比較することで、邪馬台国で女王が誕生した背景と特質を浮き彫りにすることができます。

2月 1日(木)

18:00~19:30

第65回

〈テーマ〉
現代社会における地域語のあり方
-地域方言の衰退と変容-

〈講 師〉
大学院社会文化科学研究科
中東 靖恵 准教授

内 容

日本の地域社会で話される方言、すなわち「地域語」は、全国共通語化が進んだ現在、衰退・変容しています。一方、近年若者を中心に「方言ブーム」が起こり、地域語に新たな価値が見出され、その動向が注目されています。

お申し込みはこちらから

[http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/
event/sciencecafe_02.html](http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/event/sciencecafe_02.html)



老若男女が集まるサイエンス
カフェは、岡山大学が開催す
る人気イベントの一つです。



講演する窪木拓男教授。歯科医療のたどってきた歴史をひもといたほか、歯の再生にむけた最先端の研究成果などについて解説した。

受講生の方へのインタビュー

初めて参加した40代女性は「研究によってどんどん進歩していると知り、感動しました。興味のあるテーマだったので、大学なので難しい話かとおそるおそる参加しました。でも一般の人にもよく分かるようにならんで分かりやすく話していただけたのでよかったです」。60代男性は「気になるテーマで興味深かったです。最新の研究についてリアルタイムで

聞けて有意義な時間でした。今後、永久歯が再生できるようになるのが待ち遠しいです」と話していました。

リピーターも多く、「夫婦で参加した60代女性は来られるときは、毎回来ています。最先端のことを勉強でき分かりやすく、楽しいです」。

会場では参加者が熱心にメモをとる姿や、質問の手がたくさん上がる様子が印象的でした。身近なテーマや知らない分野について、第一線で活躍する研究者から話を聞く機会はなかなかありません。市民の皆さんにも分かりやすいようにならんでいた話が聞け、なにより研究者と参加者の距離が近いことにびっくり。講演会とは違つて、コーヒーなどを飲みながら気楽な雰囲気の中で研究者との対話できる「カフェ」的空間が、人気の秘密かもしれません。

窪木教授は、生涯をかけており、歯の欠損について解説しました。また歯科医療のたどってきた歴史をひもといいて紹介。今年3月に論文発表したばかりの最新の研究成果として、大型動物モデルであるイヌの歯の再生に成功したことにも触れました。ヒトの歯の再生実現へまた一步近づいた研究成果に、参加者は興味津々。私も思わず潜入を忘れてしまったくらい、夢中で聞いていました。



4/17 (17:45)
まずは受け付け。スタッフの方に「参加認証カード」へスタンプを押してもらいます。スタンプを10コ集めると、岡山大学のグッズがもらえるんだとか!

窪木教授は、生涯を健康に過ごすために歯がとても重要な役割を担つており、歯の欠損が認知症や誤嚥性肺炎といった病気を招くことを説明。口腔機能を回復



18:00
いよいよお待ちかね、窪木教授の講演スタート!

18:30
講演を聞きながら熱心にメモを取る参加者たち



HISTO+REAL

HISTORY OF
OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学が歩んだ歴史。

Vol.1 1947-1949

岡山大学の創設。



陸軍施設が多数残る津島地区(1948年当時)半田山から

大学構想のはじまり

敗戦の痛手も癒えない1947(昭和22)年3月、戦後の民主主義社会に対応した抜本的な教育制度改革である新しい教育制度「6・3・3・4制」がスタートしました。これに基づき、新制大学の発足に向けた準備が進められることになりました。当時、岡山県下には、国立学校の岡山医科大学、第六高等学校、岡山師範学校、岡山青年師範学校、岡山県立の岡山農業専門学校などがあり、それぞれ独自の大学への移行を目指して検討していました。

こうした各校の動きとは別に、新制大学設立に重大な関心を示していた岡山県の西岡広吉知事は、47年9月に総合大学私案を発表しました。これにより、10月に「岡山総合大学設立準備委員会」が発足し、「国立岡山総合大学設立計画書」と「設立請願書」が作成されます。また、設立に要する費用約3億6千万円は、県民の寄付金をもつて充てることが決定されました。これをもって、準備委員会は、「岡山総合大学設立期成会」と改称します。

誘致の盛り上がり

47年12月の文部省への陳情で、新学制による国立総合大学は、中国地方には1校のみが設立される予定であることが伝わり、大学設立運動は中国総合大学誘致運動へと発展していきます。翌48年1月岡山総合大学設立期成会は「中国総合大学設立期成会」と改称し、仁科芳雄博士を支部長とする東京支部を設置しました。総合大学の誘致を目指す運動は、県市当局や、経済界、岡山誘致を目標とする運動は、県市当局や、経済界、

関係学校の教職員、学生の動きとなつて県下に拡散していきます。

岡山医科大学の学生は第六高等学校をはじめ県下高等専門学校生に呼びかけ、「中国総合大学岡山設立促進学生連盟」を結成し、誘致運動に乗り出します。署名活動では、わずか4日間で9万人近くの賛成署名を集めました。医科大学で開催された中国総合大学岡山誘致学生大会には約4000人の学生が集結しています。新聞も「県民一丸! 実現へ」と題した記事を掲載し、誘致運動は県民の大きな関心を集めました。

3月中旬、新制大学はなるべく総合大学の形態をとる国立大学とし、最初は不完全でもできるだけ多く設立したいとの文部省の意向が明らかになります。岡山への総合大学設立は確実になり、それに向けて本格的な準備が始まります。

大学敷地の確保

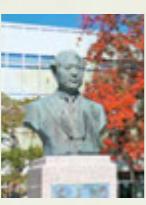
岡山大学の津島地区には、陸軍が使用していた約20万坪の広大な土地と約4万坪の建物がありました。終戦後は連合軍に接収されましたが、47年10月に大蔵省に返還されます。第六高等学校の黒正巖校長は、この場所を大学敷地として使用できないかと考えていました。そこで、大学創設の日まで放置しておけば、荒れ果ててしまうことを懸念し、教職員の一部と文理科の1・2年生を率いて跡地に移り、徹夜で盗難防止にあたりました。この行動が契機となり、陸軍の跡地と県有地の一部を加えた広大な敷地が岡山大学津島キャンパスとなります。当初、その面積は、北海道大学に次ぐと言われるほど広大なものでした。

キャンパスを見守る銅像



仁科芳雄
博士像

仁科芳雄博士(現在の岡山県里庄町出身)は、日本はもちろん世界の量子力学の発展に多くの貢献があります。「中国総合大学設立期成会」東京支部長の仁科芳雄博士の銅像と、大学の敷地確保に尽力した黒正巖第六高等学校校長の銅像です。



黒正巖
校長像

黒正巖先生(現在の岡山市東区出身)は1944年、母校の第六高等学校の校長に就任。大戦末期から終戦後最も困難な時期に教育に尽力し、戦災にあった同校の復興にも大いに寄与しました。また、岡山大学の創設の際に中心となつて活動し、現在の岡山大学の礎を築きました。現在、附属図書館前には、岡山大学関係者、高卒生、知人からの寄付金でつくられた銅像が設置されています。また、記念賞制度も設けられ、黒正賞として、岡山大学を新たに卒業する学業や人物の優れた学生に授与しています。

参考文献:岡山大学二十年史・岡山大学五十年史・岡山市史



岡山総合大学設立期成会事務局看板



岡山総合大学
設立請願書
(岡山大学二十年史より)



中国総合大学誘致資金
醸出芳名録
(岡山大学二十年史より)



1948年1月28日 合同新聞記事



1948年2月2日 合同新聞記事



1948年2月26日 合同新聞記事

戦後間もない1949(昭和24)年5月31日、新制岡山大学が発足しました。

新制大学として発足するまでには、第二次世界大戦の敗戦に伴う

連合軍や日本政府による高等教育政策の転換があり、

また、地元岡山県を中心とした

総合大学誘致運動の歴史がありました。

今回から始まった新コーナー「HISTO+REAL(ヒストリアル)」では、岡山大学の「HISTORY(歴史)」と、それにまつわるトピックスをシリーズで紹介します。ルーツや歩んできた歴史を当時の資料などから「REAL(リアル)」にひもとくことで、岡山大学の礎を理解し、大学の将来を見据えるコーナーです。

「実りの学都」へ。

槙野新学長をリーダーに、新たに選出された岡山大学の理事。それぞれが自らの個性とスキルを輝かせながら、岡山大学というステージで融合し、

次代の岡山大学構築に向け、ベクトルを合わせて歩んでいきます。



Board of Directors

「実りの学都」の実現

一世界が憧れる大学へ

岡山大学は、これまで「学都の創成」を着実に進めてきました。私は、これを引き継ぎ、第14代学長として、「実りの学都」の実現を目指していきます。

学は、それぞれが個性を輝かせる(彩)いろどり)ある「大学」です。それぞれの個性をさらに伸ばし、垣根を超えて融合する(統合)ことで、大学としてより高みを目指していきます。

こうした変化を実感することが「学都の実質化」であり、私が目指す「実りの学都」の

槙野 博史 学長



profile
(まきの・ひろふみ)
岡山大学医学部助手、米ノースウエスタン大学医学部客員助教授。
などを経て2005年大学院医歯薬学総合研究科教授。09年大学院医歯薬学総合研究科長・病院長。岡山大学医学部准教授。岡山市北区出身。

実現です。

大学の最も重要な使命は教育・研究を通じた世界最高水準の人材を育成することです。私は、「知の源となる好奇心の種」を蒼き課題の解決に取り組むことで「世界最高水準の人材」を育成していくことを考えています。岡山大学を世界の学生や教職員にとって憧れの大学とすることをめざします。

私が与えられた大切な役割です。座右の銘である「和顔愛語わげんあいこ」とかな顔とやさしい言葉)を合い言葉に、リーダーシップを取り、大学の舵を切っていきます。

高橋 香代 理事・副学長 企画・評価・総務担当



profile
(たかはし・かよ)
岡山大学医学部附属病院医員、教育学部講師、同教授など経て2006~10年に教育学部長・大学院教育学研究科長。13年から4年間くじき作陽大子ども教育学部長・教授。岡山大学医学部卒。高知市出身。

コミュニケーションを密に現場と大学の目標をつなぐ

スバーグローバル大学創成支援事業を筆頭に人事・広報・ダイバーシティ・地域貢献・学都基盤など幅広い業務を担当します。大学経営は本当に厳しくなりました。だからこそ、現場とのコミュニケーションを密にして、目標を共有していきます。

このように、目標を共有していきます。

竹内 大二 理事・副学長 研究担当

profile
(たけうち・だいじ)
1984年科学技術庁に入庁、内閣府、原子力規制委員会原子力安全技術総括官、高エネルギー加速器研究機構理事・管理局長など歴任。名古屋大学大学院工学研究科博士課程前期修了。岡山県美作市出身。

研究力強化と産学官連携の深化により世界に伍する研究大学に異分野融合、次世代研究シーズの育成・研究環境・制度の見直しなどを通じて大学の研究力を強化します。さらに、産学官連携による地域創成やイノベーションへの貢献を進め、世界トップレベルの研究大学を目指します。

佐野 寛 理事・副学長 教育担当

profile
(さの・ひろし)
名古屋大学法学院助手、岡山大学法学院助教授、同教授など経て2004年から法学院副学部長、08年から法学院長、15年から2年間大学院社会文化科学研究科長、名古屋大学大学院法学院博士課程(前期)修了。名古屋市出身。

60分授業・4学期制の検証と発展

グローバル化の推進

2016年度から全学部導入した60分授業・4学期制を検証し発展させていきます。今年10月に開設する新しい教育プログラム「グローバルディスカバリー・プログラム」を順調にスタートさせます。これらを通して、世界で活躍できる「実践人」の育成を目指します。

このように、目標を共有していきます。

金澤 右 理事・副学長 医療担当

profile
(かなざわ・すすむ)
米テキサス大学M・Dアンダーン病院研究員、岡山大学医学部附属病院講師、同助教授など経て2005年から大学院医歯薬学総合研究科教授。11年から6年間岡山大学病院副病院長。岡山大学大学院医学研究科修了。長野市出身。

「向き合う、つながる、広がる」を合い言葉に患者さんやご家族と向き合う

岡山大学病院は、特定機能病院として、高度な医療の提供、医療技術の開発、人材育成など特別な使命に応えていきます。安全管理にも配慮し、患者さんやご家族と真摯に向き合い、世界標準の病院を目指します。

このように、目標を共有していきます。

菅 誠治 理事・副学長 財務・施設担当

profile
(すが・せいじ)
日本学術振興会特別研究員、京都大学大学院工学研究科准教授など経て2008年に岡山大学大学院自然科学研究科教授。07~11年農学部長、13年から4年間工学部副学部長。名古屋大学大学院理学研究科博士課程修了。奈良市出身。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

神崎 浩 理事・副学長 国際担当

profile
(かんざき・ひろし)
日本学術振興会特別研究員、岡山大学農学部助教授、同教授など経て2005年に大学院自然科学研究科教授。07~11年農学部長、13年から4年間大学院環境生命科学研究科長。京都大学大学院農学研究科博士課程修了。奈良市出身。

大学独自の国際的取り組みを伸ばし世界での存在感を發揮

学部や研究科単位の取り組みと、学部で提供するプログラムの相互理解を図り、充実させていきます。岡山大学は、独自のユニークな国際的な取り組みがあるので、それをしっかりと伸ばし、世界で存在感を発揮させます。

このように、目標を共有していきます。

KANAZAWA Susumu 理事・副学長 企画・評価・総務担当

profile
(かなざわ・すすむ)
米テキサス大学M・Dアンダーン病院研究員、岡山大学医学部附属病院講師、同助教授など経て2005年から大学院医歯薬学総合研究科教授。11年から6年間岡山大学病院副病院長。岡山大学大学院医学研究科修了。長野市出身。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

SUGA Seiji 理事・副学長 財務・施設担当

profile
(すぎ・せいじ)
日本学術振興会特別研究員、京都大学大学院工学研究科准教授など経て2008年に岡山大学大学院自然科学研究科教授。07~11年農学部長、13年から4年間工学部副学部長。名古屋大学大学院理学研究科博士課程修了。奈良市出身。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

TAKEUCHI Daiji 理事・副学長 企画・評価・総務担当

profile
(たけうち・だいじ)
1984年科学技術庁に入庁、内閣府、原子力規制委員会原子力安全技術総括官、高エネルギー加速器研究機構理事・管理局長など歴任。名古屋大学大学院工学研究科博士課程修了。岡山県美作市出身。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

MAKINO Hirofumi 理事・副学長 研究担当

profile
(まきの・ひろふみ)
岡山大学医学部附属病院医員、教育学部講師、同教授など経て2006~10年に教育学部長・大学院教育学研究科長。13年から4年間くじき作陽大子ども教育学部長・教授。岡山大学医学部卒。高知市出身。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

TAKAHASHI Kayo 理事・副学長 企画・評価・総務担当

profile
(たかはし・かよ)
岡山大学医学部附属病院医員、教育学部講師、同教授など経て2006~10年に教育学部長・大学院教育学研究科長。13年から4年間くじき作陽大子ども教育学部長・教授。岡山大学医学部卒。高知市出身。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

SANO Hiroshi 理事・副学長 企画・評価・総務担当

profile
(その・ひろし)
2016年度から全学部導入した60分授業・4学期制を検証し発展させていきます。今年10月に開設する新しい教育プログラム「グローバルディスカバリー・プログラム」を順調にスタートさせます。これらを通して、世界で活躍できる「実践人」の育成を目指します。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

KANZAKI Hiroshi 理事・副学長 企画・評価・総務担当

profile
(かんざき・ひろし)
岡山大学医学部助手、米ノースウエスタン大学医学部客員助教授。などを経て2005年大学院医歯薬学総合研究科教授。09年大学院医歯薬学総合研究科長・病院長。岡山大学医学部准教授。岡山市北区出身。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

TAKEUCHI Daiji 理事・副学長 企画・評価・総務担当

profile
(たけうち・だいじ)
1984年科学技術庁に入庁、内閣府、原子力規制委員会原子力安全技術総括官、高エネルギー加速器研究機構理事・管理局長など歴任。名古屋大学大学院工学研究科博士課程修了。岡山県美作市出身。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

MAKINO Hirofumi 理事・副学長 研究担当

profile
(まきの・ひろふみ)
岡山大学医学部助手、岡山大学法学院助教授、同教授など経て2004年から法学院副学部長、08年から法学院長、15年から2年間大学院社会文化科学研究科長、名古屋大学大学院法学院博士課程(前期)修了。名古屋市出身。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

TAKAHASHI Kayo 理事・副学長 企画・評価・総務担当

profile
(たかはし・かよ)
岡山大学医学部附属病院医員、教育学部講師、同教授など経て2006~10年に教育学部長・大学院教育学研究科長。13年から4年間くじき作陽大子ども教育学部長・教授。岡山大学医学部卒。高知市出身。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

このように、目標を共有していきます。

SANO Hiroshi 理事・副学長 企画・評価・総務担当

profile
(その・ひろし)
2016年度から全学部導入した60分授業・4学期制を検証し発展させていきます。今年10月に開設する新しい教育プログラム「グローバルディスカバリー・プログラム」を順調にスタートさせます。これらを通して、世界で活躍できる「実践人」の育成を目指します。

必要な財源を重点配分施設整備で安全・快適な環境を

運営費の削減が続き、大学経営は厳しい状況です。その中でも多くの人が納得できる形で必要な財源を重点的に配分していくべきです。安全な施設、快適な環境で教育・研究ができるよう施設整備にも力を入れます。

3月

2017年 大学の動き
(3月~5月)

- 7日/ ●個別学力検査等前期日程の合格者を発表
- 10日/ ●資源植物科学研究所がNISTEP調査で、Top10%補正論文割合が最も高い組織に選ばれた
- 22日/ ●個別学力検査等後期日程の合格者を発表
- 法務研究科が香川大学法学部との教育連携協定を締結
- 23日/ ●岡山大学病院が「医療法上の臨床研究中核病院」に認定
- 23日/ ●SOMPOホールディングス株式会社と包括連携協定を締結
- 24日/ ●平成28年度学位記等授与式を挙行

4月

- 1日/ ●中性子医療研究センターが開所
- 2日/ ●平成29年度岡山大学入学式、大学院入学式を挙行
- 18日/ ●鹿田会館・講堂の改修第Ⅰ期工事が完了
- 19日/ ●台北駐大阪経済文化弁事処長が楳野学長を表敬訪問
- インドネシア・アンダラス大学長らが楳野学長を表敬訪問
- 28日/ ●沈建仁教授が「みどりの学術賞」を受賞し授与式に出席

5月

- 11日/ ●岡山大学病院で国内最年少の肺移植に成功
- 14日/ ●岡山大学病院が「総合診療棟西棟竣工記念式典」を挙行

国内最年少
1歳女児への
肺移植手術成功

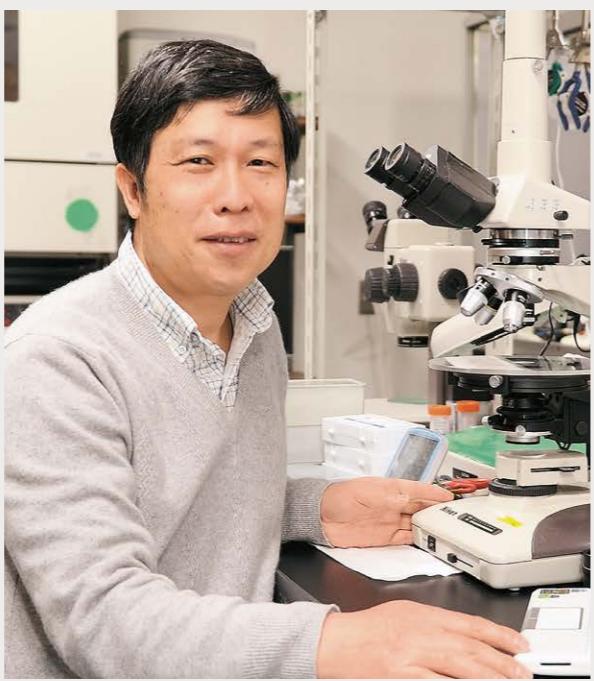
MEDICAL

岡山大学病院臓器移植医療センターの大藤剛宏教授らのチームは5月11日、肺の血管が細くなり肺の動脈圧が高くなる難病・肺高血圧症を患った1歳の女児への肺移植手術を実施しました。未発達の血管や気管支は難易度が高く、約6時間半かけて手術は成功。生体間の肺移植を含め、国内最年少患者への肺移植です。

沈教授に「みどりの学術賞」

AWARD

異分野基礎科学研究所の沈建仁副所長・教授が4月28日、「平成29年みどりの学術賞」を受賞し、授与式である「みどりの式典」に出席しました。同賞は、国内において植物や自然保護に関する研究、技術開発で顕著な功績のあった個人に対し贈られるものです。

「大学短歌バトル2017」で
岡山大学短歌会が優勝

CLUB ACTIVITIES

全国の大学生が日本の伝統文芸競技「歌合(うたあわせ)」の腕を競い合う「第3回大学短歌バトル2017」の本戦が3月4日、東京で行われ、結成5年の本学の短歌サークル「岡山大学短歌会」が初優勝しました。岡山大学短歌会は、文学部当時3年の川上まなみさん、当時4年の森永理恵さんと山田成美さんの3人で参加。決勝戦では大阪大学短歌会を3戦全勝で制し、見事初優勝しました。

環境理工学部の
島田さんが「アジアを代表する
30歳以下の30人」に選出

VENTURE

環境理工学部4年の島田舜介さんが4月13日、世界的有名な経済誌Forbesの「アジアを代表する30歳以下の30人」に選ばされました。島田さんは起業を目指す学生が集まる「岡山大学ベンチャー研究会」に参加。デニム製品の企画・販売会社「EVERY DENIM」を立ち上げ、倉敷市児島産のデニムの魅力を発信しています。日本からは島田さんのほか、サッカー日本代表の香川真司選手らが選ばされました。

学部・大学院生ら
計3,401人が入学

CEREMONY

本学の入学式が4月2日、岡山県総合グラウンド体育館(ジップアリーナ岡山)で開かれ、学部・大学院生ら計3,401人の新入生が、期待を胸にキャンパスライフの第一歩を踏み出しました。

楳野博史学長による式辞では、戦後の新制岡山大学発足にあたって用地確保に尽力した第六高等学校の黒正巖校長について触れたほか、「さまざまなこにまずチャレンジしてほしい。失敗を恐れずに、一歩前に踏み出し体験することこそ若者の特権である」と話しました。

水泳部の中尾さんが
日本代表に選出

SPORT

第93回日本選手権水泳競大会が4月13~16日行われ、水泳部の中尾駿一さん(マッチングプログラムコース4年)が50mバタフライで2位、50m自由形で3位の好成績を収めました。本大会は、今年8月に台北で開かれるユニアード夏季大会の代表選考会も兼ねており、中尾さんは同大会の日本代表に選ばされました。

岡山大学・フ工大学院特別コース
第9期生が里親と対面

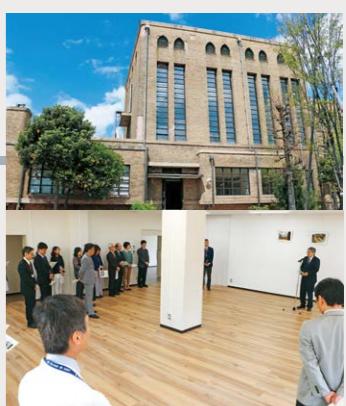
GLOBAL

岡山大学とベトナム・フエ大学の修士課程共同プログラム「岡山大学・フ工大学院特別コース」の留学生が4月26日、「里親」企業と対面し、自身の研究テーマや感謝の言葉などを伝えました。同コースはベトナム人留学生が修士の学位を取得するプログラムで、コースの趣旨に賛同した企業から奨学金を募る「里親制度」方式を採用しています。対面式終了後には、里親と一緒に学内施設や研究室を見学しました。

鹿田会館・講堂の改修
第Ⅰ期工事が完了

CAMPUS

岡山大学医学部は、医学部創立150周年記念事業の一環として進めていた鹿田会館・講堂(旧生化学棟)改修工事について、第Ⅰ期工事が完了したことを受け、4月18日、完成披露の内覧会を行いました。第Ⅰ期工事は、同館1階の西側エリアをリニューアル。昔ながらの雰囲気はそのままに、コミュニケーション・スペースや、ゲストルーム、ラウンジなどを整備しました。



オープンキャンパスへ行こう!

日 程

8/5(土)

- 文学部
- 工学部
- グローバル・ディスカバリー・プログラム
- 教育学部
- 環境理工学部
- 医学部医学科
- 理学部
- 農学部
- 歯学部

8/6(日)

- 法学部
- 薬学部
- グローバル・ディスカバリー・プログラム
- 経済学部
- 工学部
- 医学部保健学科
- 理学部
- 環境理工学部

〈時間・内容〉 学部によって開催時間、内容が異なります。詳しくはホームページをご覧ください。

〈交通アクセス〉 津島キャンパス



- 文学部
 - 教育学部
 - 法学部
 - 経済学部
 - 理学部
 - 薬学部
 - 工学部
 - 環境理工学部
 - 農学部
 - グローバル・ディスカバリー・プログラム
- JR岡山駅運動公園口(西口)から「47」系統の岡電バスで、「岡大入口」又は「岡大西門」下車
オープンキャンパス当日は、JR岡山駅運動公園口(西口)から臨時直通バスが運行します。
- JR津山線「法界院駅」下車、徒歩約10分

鹿田キャンパス

- 医学部
 - 歯学部
- JR岡山駅後楽園口(東口)から「2H」系統の岡電バスで、「大学病院」下車
- JR岡山駅後楽園口(東口)から「12」「22」「52」「62」系統の岡電バスで、「大学病院入口」下車



申し込み方法

岡山大学ホームページから、お申し込みください。

※教育学部…申し込み時に発行する整理番号による入場制限を行います。



お問い合わせ先

岡山大学アドミッションセンター

TEL 086-251-7255 E-mail opencampus@adm.okayama-u.ac.jp



学 章

岡山大学広報 いちょう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。
取り上げてほしい話題、質問したいことなど、何でも結構ですので下記連絡先までお寄せください。

発 行：岡山大学 総務・企画部 広報・情報戦略室

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

Tel. 086-251-7292 Fax. 086-251-7294

E-mail www.adm.okayama-u.ac.jp

<http://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学

検索

